

反射法地震探査データを用いたフィリピン海周辺における海洋性地殻 非海洋性地殻遷移帯の構造解析 (2)

The structural analysis using prestack migration method of seismic reflection data in the Philippine Sea area (2)

山下 幹也 [1]; 高橋 成実 [2]; 小平 秀一 [2]; 金田 義行 [3]; 神田 慶太 [4]

Mikiya Yamashita[1]; Narumi Takahashi[2]; Shuichi Kodaira[2]; Yoshiyuki Kaneda[3]; Keita Koda[4]

[1] 海洋研究開発機構; [2] 海洋機構 地球内部変動研究センター; [3] 海洋機構; [4] 資源機構

[1] JAMSTEC; [2] IFREE, JAMSTEC; [3] JAMSTEC,IFREE,DONET; [4] JOGMEC

フィリピン海周辺域では石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) によって取得した九州パラオ海嶺を中心とするマルチチャンネル反射法地震探査データが数多く存在する。また海洋研究開発機構 (JAMSTEC) でも伊豆小笠原海域を中心にマルチチャンネル反射法地震探査を実施している。これまでの研究ではこれらのデータを用いて重合前深度マイグレーション (PSDM) の適用による深部反射面の高精度イメージングを行い、海洋性地殻 非海洋性地殻遷移帯の構造解析を行ってきたが、深部イメージングのためには OBS を用いた構造解析結果を用いることが有効である。しかしながら、OBS による速度情報を引用するためには何らかの反射面の同定が必要であるため、本研究ではアトリビュート解析による反射特性を抽出し、パレスペラ海盆拡大に伴う影響についても考察する。